

令和2年5月15日

全国国公立幼稚園・こども園長会  
全会員園 園長様

全国国公立幼稚園・こども園長会  
会長 新山 裕之

## 今こそ、国公幼の実績とネットワークを生かした取り組みを

新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言が5月31日まで延長され、全国各地で臨時休業が続いています。入園式や始業式もできないまま、5月を迎えるという園も多くあります。そのような中、各園では、自宅で過ごす親子に向けて様々な支援策を工夫し、さらにその取組事例の提供を呼び掛けたところ、全国の国公幼会員園から約200件も投稿していただきました。それらは、先日より文部科学省『子供の学び応援サイト』に『新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の事例集』として紹介されています。全投稿数の8割が、国公幼の取組事例だったそうです。本当にありがとうございました。

本会としては、これまで特別事業委員会が作成してきた子育ての支援教材を『国公幼 遊びの紹介』でインターネット検索できることを積極的にPRしてきました。多くの園でホームページを通じて自宅で過ごす親子の支援に役立てていただいています。また、4月末から、文部科学省『子供の学び応援サイト』や国立教育政策研究所 幼児教育研究センター、東京大学 発達保育実践政策学センター (cedep) にリンクを貼ってもらい、広く社会貢献を果たしています。引き続き、皆さんの園や地域でも、積極的に国公幼のホームページの活用をPRしていただき、地域の幼児教育の核としての役割を果たしていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

地域によっては、幼稚園・こども園も再開する動きも出てくるでしょう。手洗い等の指導については、私たちの得意な分野と言えます。保護者の思いに寄り添って支えることは、日常的に心掛けてきたことですが、この状況下では、今まで以上に保護者の心を支える必要性が増してきています。また、園が再開される際には、新しい生活様式として、3つの密を避けることを徹底する必要があります。

一方で、幼稚園・こども園では、保育者や友達との接触や接近を避けて遊びや生活を行うことが極めて難しいと言わざるを得ません。園や地域によって状況は大きく異なりますが、これらの様々な課題にどのように対応していくのか、国公幼が全国・各地域の組織力・ネットワークを生かして情報交換をし、現状にふさわしい保育の工夫や子育ての支援をしていくことが、今こそ求められています。

埼玉での総会・研究大会、和歌山での教育研究協議会が中止になりました。また、各ブロックでの研究大会や要望活動も例年通りにはできないでしょう。そこで行う予定だった研究協議や研修をどのように補うか、また誌上発表などの方法で代替した場合に、それがその後の実践にどのように生かされたかまでを含めて研修と考えていく必要があります。これは、学び続け、実践の質の高さを誇る国公幼としての使命です。

各地の財政も一層厳しくなることが予想されます。臨時休業が続く中でも、私たちの身分や給与が保障されている分、しっかりと使命や役割を果たすことで、各園が地域に無くてはならない存在であり、国公幼という全国組織があるからこそ力を発揮できることを社会や行政にアピールしていく絶好のチャンスです。

健康にご留意いただき、知恵を出し合い、連携を取り合って、子どもたちの育ちを一緒に支えていきたいと思っております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。